

## 国語（国語総合） 解答例

### 第1問

- 問1 ① 随時 ② 影響 ③ 醜悪 ④ 移管 ⑤ 書籍
- 問2 （自分の作った）芸術作品を永久に生きのびさせようという目的。
- 問3 飾り気がなく、無邪気なこと。

問4 永井荷風は自分の日記の永生を信じており、文学として日記「断腸亭日乗」を書く以上、その生の根本的な否定は告白を不可能にするから。

問5 自分の一定時間を、減びやすい肉体に、モーターなもののためにささげるべきだという、峻厳なる義務感

問6 読者の立場に立った時、一文学作品の与える感動も、一俳優の演技の与える感動と等質であり、文学作品は享受の瞬間から、享受者の生あるいは体験の一部となり、永生と思われていたものも、享受者自身の人生のモーターな（減びゆく）領域へと移っていく、と筆者は考えている。

### 第2問

- 問1 ① 眉 ② 暇（閑、隙でも可） ③ ちようしよう ④ 途方 ⑤ 屋台

問2 息を詰まらせるほど激しい様子で泣いていた。

問3 おかみさんが自分の言ったことを忘れてさぶを責めたことや出ていけと言ったことは、日常的な物言いのひとつなので、おかみさんはもう気にはおらず、さぶが思い悩むこととはないということ。

問4 葛西の実家に帰ったとしても自分の居場所などないことが想像できるため、さぶは肯定できずにいる。栄二もそんなさぶの気持ちがかかるため、返事はできないだろうと思っている。

問5 栄二の話が意外で深刻そうなので、一体どのような話なのか不安に思い、またなぜ栄二がそんな話を始めるのか、その理由もわからずにいる気持ち。

問6 気弱で愚鈍なさぶと、気が強く面倒見のよい栄二の姿が描かれており、互いに孤独や悩みを抱えた者同士、友情で結ばれた関係として描かれている。(※二人の人物像や境遇をふまえ、「友情」「信頼」といったような意味合いの関係がおさえられていれば、ある程度自由記述してよい。)

### 第3問

問1 大師(弘法大師)が、天皇(嵯峨天皇)に、天皇が唐人の書いた殊勝の一巻として大切にしている手跡が、大変優れており、日本人には(天皇や大師にも)真似できない、素晴らしい名品であることを語らせた。(※「いかにもかくは学び難し。めでたき重宝なり」の内容を説明できなければ、文言が異なっても可。)

問2

	活用形	未然	奏せ
敬語の種類	謙譲	尊敬	連用
敬意の対象	天皇	大師	大師

問3 どうしてそんなことがあるだろうか。(あるはずがない。)

問4 d

問5 本当に私より優っておられるものだなあ。

問6 唐は広大な大国なので、その土地柄に合わせて、文字の勢いをこのようにしたが、日本は狭い小国なので、現今(現在、今日)のような書き方になっている。国に合わせて、筆勢も変えているのだと回答した。(※以上のような主旨の説明がされていれば、文言は異なっても可。筆勢の違いについて、「強い」「激しい」「大胆」「弱い」「抑えた」「緩やか」等の具体的な形容をしていてもよい。)